

原木シイタケを加害するキノコバエ種の解明

1 背景・目的

能登地域の原木シイタケ生産地においてキノコバエ被害が顕在化している(写真-1)。キノコバエ科の幼虫はシイタケを食害するほか、幼虫が付着したシイタケは異物混入となり商品価値を低下させる。被害対策には加害するキノコバエの種類の特定が急務である。

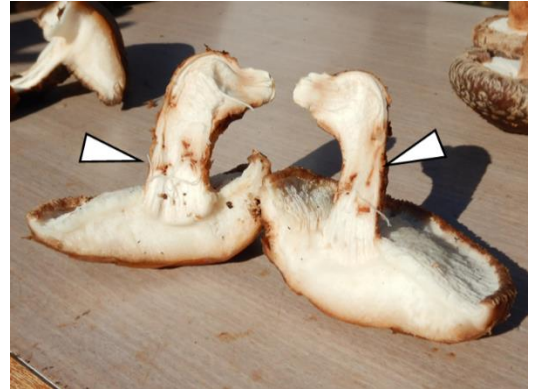


写真-1 キノコバエに食害されたシイタケ

2 技術のポイント

- (1) 被害シイタケから3種のキノコバエ(ナカモンナミキノコバエ、フタモントンボキノコバエ、シイタケトンボキノコバエ)が出現した(写真-2)。これらは全国的に原木シイタケの害虫として知られている種である。
- (2) ホダ場でキノコバエの個体密度を低下させるために草刈りや腐敗したシイタケの除去が重要である。



写真-2 食害シイタケから羽化したナカモンナミキノコバエの雌(左) およびシイタケトンボキノコバエの雄(右)

3 成果の活用と残された問題点

- (1) これらの種の知見や被害発生生態をシイタケ生産者と共有し、被害対策の促進や検討を行う。
- (2) これら種類の県内分布や出現時期を明確にし、被害対策に努める必要がある。

問合せ先：資源開発部 TEL 076-272-0673
担当者：江崎功二郎・山崎美佳*